

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

千葉県防災キャンプ「生活体験学校」

千葉県教育委員会(主催)山武市教育委員会(共催)

## 【事業のポイント】

- 薪を使った野外炊事体験(16回)
- 調和のとれたプログラム  
(技術、知識、実習、グループ構成ほか)
- 伝承者と次代の担い手、つなぎ手の三世代による異世代交流
- 県と市の共催による事業運営



## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

東日本大震災では、被災者した方々が、長い間、避難場所となった学校の体育館等での共同生活を送る事態となったことを踏まえ、平時から児童・生徒に野外炊事やテントでの宿泊等といった非常時の生活を想定した生活体験を行う機会を設けることが必要である。

### (2) ねらい

被災時の避難所となる学校の体育館や校庭等を活動場所とし、6泊7日程度の長期における生活体験活動をとおり、児童・生徒が薪を使った自炊等、ガス、電気等のライフラインが遮断されたことを想定した、生活体験や異年齢集団での共同生活を行い、互いに協力してたくましく生き抜く力をはぐくむ。

## 2. 事業概要

### (1) 運営体制

#### 【千葉県教育委員会】

- ・全体調整
- ・推進事業検討会議の実施
- ・講師等の依頼
- ・学生スタッフの募集、調整
- ・フォーラムの企画、実施



#### 【山武市教育委員会】

- ・会議及び日程の調整
- ・地域住民、警察、消防等との連携調整
- ・参加児童生徒の募集
- ・地域スタッフの募集、調整

#### 【千葉県防災キャンプ 推進事業検討会議】

- (7名の検討委員を配置)
  - ・プログラムの詳細決定
  - ・スタッフ配置の決定
  - ・生活体験学校の運営
  - ・事業評価及びまとめ
- 〈事務局〉  
千葉県教育委員会  
山武市教育委員会
- ・関係機関との渉外
  - ・必要物品の発、準備
  - ・参加者の募集及び決定通知の発送

#### 【防災キャンプ「生活体験学校」】

- 〈運営スタッフ〉
- ・ディレクター  
(全体総括/プログラム担当)
- ・プログラム講師(地域協力者)
- ・支援スタッフ  
(学生/自然体験指導者養成事業修了者)
- ・看護スタッフ
- ・地域住民ボランティア
- ・事務局

#### 【千葉県防災キャンプフォーラム】

- ・基調講演(大学教授)
- ・防災キャンプ「生活体験学校」事業報告
- ・パネルディスカッション

(2)開催実績	
月 日	内 容
5月中旬	共催市町村の公募
5月下旬	共催市町村決定
6月上旬	共催市町村との日程・会場等の打合せ
7月上旬	参加者募集開始
7月16日	第1回千葉県防災キャンプ推進事業検討会議
7月27・28日	スタッフ事前研修会 ※キャンプ参加保護者説明会(7/28)
8月19日～25日	千葉県防災キャンプ「生活体験学校」の実施
11月12日	第2回千葉県防災キャンプ推進事業検討会議
2月15日	千葉県防災キャンプフォーラムの実施

### 3. 防災キャンプ実施概要

【防災キャンプ「生活体験学校」】		※太字は実習プログラム
月日(日目)	活 動 項 目	活 動 内 容
8月19日(1日目)	開校式・仲間作り・はし作り・寝床作り	開校式に続き、アイスブレイクゲームで仲間作りの後、ライフラインがストップした際に役立つ知識を得るため昔の生活を知る講義、道具を自分たちで作る体験、ダンボールを利用した寝床作りを行った。
8月20日(2日目)	防災運動会・災害について知る・シャワー作り	防災運動会をとおしたバケツリレーや土のう積みなど防災時に役立つ技術体験、学校の備蓄倉庫見学など地域の防災体制について学んだ。
8月21日(3日目)	地区の防災組織を知る・地域の自然、歴史を学ぶ・火おこし体験	地域の自主防災組織についての講義、東日本大震災時の山武市の津波被害についてビデオ視聴をとおし、震災時の対応について学んだ。午後は共助の意識向上を図るため、地域の自然環境と歴史遺産について学んだ。夜はキリモミ式の火おこし体験とたき火をとおし、火の大切さについて学んだ。
8月22日(4日目)	洗濯・危険箇所マップ作り・危険箇所発見、聞き取り調査・星座から学ぶ	たらいを使った手洗いによる洗濯の仕方について学んだ。地域のハザードマップ作り、被災者への聞き取りなどのフィールドワークを行った。
8月23日(5日目)	ロープワーク～テント設営～・応急処置の仕方を学ぶ・昔の人の生活から学ぶ	災害時に役立つロープワークを学び、自分たちが宿泊利用するテント設営を行った。午後から災害時に予想されるけがや病気への応急処置の仕方を学んだ。
8月24日(6日目)	人と食べ物について～伝統食作り・創作料理「冷蔵庫の残り物で何が作れる？」	キャンプのまとめ 地域の方から「食」についての考え方や、米に対する農家の方の話をとおして、地域で「伝承される」ものの価値について考えた。ライフラインがストップしたことを想定し、今ある食材で何が作れるかについて、班ごとに話し合いメニューを決定し、実際に調理した。
8月25日(7日目)	作文・発表会・後片づけ・閉校式	キャンプを振り返り、個々の活動内容についての感想や災害時に心がけたい行動などワークシートにまとめ発表した。

### 4. 普及啓発の実施概要

- ・千葉県社会教育担当者研修会において千葉県防災キャンプ「生活体験学校」事業報告をするとともに、フォーラムの開催について通知した。
- ・千葉県防災キャンプ「生活体験学校」報告書を、県内市町村教育委員会を通じて関係機関に配布した。(54市町村×10部)
- ・千葉県防災キャンプフォーラムの報告を千葉県教育委員会のHPに掲載した。
- ・千葉県教育委員会発行「県教委ニュース9月号、3月号(web版)」に掲載した。

※防災キャンプフォーラム参加募集チラシ(20,000枚)や県民だよりを発行した。  
平成26年度市町村教育長会議等で報告書を配布する予定。

## 5. 成果と課題

### (1) 事業成果

#### 【防災キャンプ「生活体験学校」】

- ・生きる力の変容調査(国立青少年教育振興機構「IKR評定用紙(簡易版)」を使用)を行ったところ、生活体験学校終了後における生きる力は事前調査に比べ向上した。
- ・子どもたちは、薪を使った野外炊事等の生活体験の他、防災に関する技術・知識や東日本大震災における地域の被災状況を学ぶことができた。
- ・学生スタッフの募集や医療機関との連携など、事業モデルを示すことができた。

#### 〈参加児童・生徒の感想〉

「防災キャンプで学んだことを生かして、なるべく家の手伝いをし、万一来て備えて、靴をしっかりと揃えて、ライトやラジオ等をいつでも持って行けるとところに置いて、防災に向け努力したいです。」

#### 〈保護者の感想〉

「台風の時、災害のことについて色々話した。普段の生活の中では特に変わったとは思っていなかったが、いざという時、親の知らない知識を持っているなと感じた。とても落ち着いて行動している姿に感心した。」

#### 【防災キャンプフォーラム】

- ・当初150名を超えた申し込みがあったが、未明までの大雪で参加者は76名と半減した。しかし、集まった参加者の意識は高く、パネルディスカッションでは、参加者からも積極的に質問、意見が述べられるなど、体験活動とおとした防災教育の効果について普及を図ることができた。

#### 〈参加者アンケートより〉

- ・防災キャンプへのイメージがわいた。
- ・体験させるだけではなく、日常生活とつなげられるように援助することで「子どもの学び」につながる事が大切だという事を改めて考える事ができた。

### (2) 事業運営上の課題・留意点

- ・全日程の参加が可能な支援スタッフ及び看護スタッフの確保が難しい。
- ・参加者及びスタッフの健康管理に配慮が必要である。
- ・安全管理(ナタや火を扱う野外炊事の回数が多いことから)に注意が必要である。
- ・防災を意識した野外炊事メニューの工夫が必要である。

### (3) その他

平成26年度は、県が主体となつての事業予定はないが、市町村等へ事業実施を呼びかけるとともに、実施団体への指導助言に務める。

## 6. 団体プロフィール

【 千葉県教育庁 教育振興部 生涯学習課 】 住 所 千葉県千葉市中央区市場町1-1  
電話番号 043-223-4070  
F A X 043-222-3565